

ひなたぼっこ通信

2018年
3月号

ケアハウスから

「一階の最新式一人風呂」

先月からケアハウス一階では、最新式の機械浴が三台目が導入されました。今まで苦勞しながら浴槽に入っていた利用者様から「このお風呂は椅子のまま入れてとても楽!」「入りながら肩にシヤワーがあたっていい!」「この泡がブクブクするのがとても気持ちいい!」と、とても喜んでいただいています。

入浴介助での職員の腰への負担も軽減され利用者様も職員も、より笑顔が広がりました。利用者様には、これからも入浴する事を楽しみにして頂き、職員も安全、安心、快適な入浴のお手伝いをしていきたいと思えました。(き)



「厳しい二月」

もうすぐ春ですネエー!と気持ちは歌いたくなる今日頃なのですが・・・この二月は厳しい日が続きました。そしてケアハウスを襲った、インフルエンザA型B型。すべての行事の中止!外部からの接触禁止など、ケアハウスが孤立したようでした。ある利用者様から「おら、体操が無ければ、一日、暇で困る」と言われました。利用者様にも一日一日が厳しい日であったようです。

スタッフも次々と感染し、利用者様には、ご迷惑をおかけしました。スタッフにも厳しい月となり、あらためて「健康のありがたさ」をひしひしと感じました。

「福寿草」も咲き始めました。春はそこまで来ています。この厳しい二月を振り返り、利用者様と一緒に温かい春を待ちわびています。(さ)

宅老所から

「豆まき」

宅老所では、毎年節分の日の恒例行事となっている『豆まき』を行いました。

ですが、本物の豆は使わず、新聞紙を丸めた『豆』を利用者様方につけていただきました。それを使って「鬼はー、外!福はー、内!」と言いなから投げてくださいました。

鬼役はというと・・・演技派の職員2人をお願いしました。鬼のお面をつけた途端、身振り手振りもな

りきっています!利用者様も職員も、笑顔が絶えない楽しい豆まきでした。

ガオー!鬼だぞ!



放課後等デイから

「おもちは杵で!」

12月のクリスマス会に続いて、1月の終わりに「餅つき大会」をしました。利用している子ども達の、お父さんや兄弟も参加してください、にぎやかな楽しい餅つき大会になりました。

「〇〇くんも、つこうか!」と誘うと、おっかなびっくり杵を持つ子ども達でした。「さあ、20数えるよ。」と一緒に餅をつきました。

お父さんたちも、餅つきはもちろん、重い臼の片付けも手伝ってください、大助かりでした。

そして、お母さんたちも大活躍。女性スタッフと一緒に餅を丸めては、黄な粉やあんこにつけます。「黄な粉餅できたよ!」「あんこも食べられるよう!」と呼び込みです。2日のお餅はあつという間になくなり、他の事業所へのおすそ分けの分が足りなくなるほどでした。

グループホームから

「節分・豆まき」2階

2月3日、グループホーム2階で節分の豆まきを行いました。3時のお茶の時間に、突然、鬼があらわれたのです。みなさん、たいへん驚かれましたが、職員の配る豆を、「鬼は外!福は内!」の元気なかけ声でまき始められました。豆まきが終わると、みなさんから、笑い声がおこりました。鬼・・・、「おへ見ると、○○さんだね!」と職員が扮することに気づかれてしまいました。「毎日、その恰好でいておへとか」赤が似合うよ・・・と会話も弾みました。みなさんに、喜んでいただ



けて、鬼に扮した職員も満足、一年の健康を祈る節分の豆まきでした。

「寒さをぶっとばせ!」1階

今年5年ぶりに出現した諏訪湖の「御神渡り。」テレビで見ながら、「御神渡りが出来るって事は、今年はそのだけ寒いんだねえ。」「やだねえ。」なんて話し。

それでは...って事で、お鍋にお野菜、鶏・魚のつみれなどを入れ、味噌味・塩味の2種類のラーメンをつくりました。「美味しいね」「あつくなってきたね」と体があつたまり、笑顔満載の昼食でした。

1階では、すぐろく・カルタ取り・花札をやっています。やりながら昔話に花が咲き、「掘りごたつにみんなで足をつっこんでは、やれ、あつちやれ、こつちやれ、と足をつつつきあつたよ。」と心ホッコリするお話も。

ある夕食の後には、98歳のご利用者の方が「この人はみんな優しく嬉しう。この人達と一緒にいたいから、長生きする!ここで生きる!」

なつ、なんて力強い熱い言葉なんでしょう!!寒いなんて言つてられません。外は寒いですが、体と



心があつたまるグループホームの利用者様たちです。

編集後記

2月の後半は平昌オリンピックで大いに盛り上がりましたね。中でも地元出身の小平選手と韓国の選手とのウィニングランには、涙を誘われた方も多かったのではないのでしょうか。長年ライバルとして競い合つた選手同士が、お互いを尊敬する関係性を築いていったことが、見かわす表情から伝わってきました。それが、偶然とはいえ日本と韓国の選手であつて、その大会が韓国で行われたということに、何か「神の配剤」のようなものを感じたりします。

ひるがえつて、竹島の領有をめぐつて、あるいは慰安婦問題での対応で、必ずしも日韓の政府の関係はうまくいっているとは言えません。スポーツの世界で「尊敬しあう関係」が築かれ、世界中の感動をよんでいます。政治がスポーツに介入することは、あつてはなりません。政治がスポーツから学ぶことはあつてもいいのではないかと思つています。お互いの文化や歴史を尊重し、尊敬しあう国と国の関係を築いていきたいものです。

理事長 森 正明

〒309-0211
富山県富山市1-1650-1
TEL 0266-61-2035
FAX 0266-61-2036